

柔道整復実技 I (包帯)		実習	准教授 伊藤 新	
科目カテゴリー	柔道整復師コースの専門選択科目	科目ナンバリング	12371101	

1. 授業のねらい・概要

柔道整復師が行う治療法には主に整復法、固定法、後療法の3種類がある。この授業では、初めに固定における基本的事項（固定の目的・範囲・肢位、固定材料の種類など）を学んだ後、基本包帯法を習得し、さらにそれらを組み合わせた身体各部別別の包帯法の実習へと進めていく。また、最後には次の学年以降の実技授業への橋渡しとして、冠名包帯法や副子などの固定材料を用いたより実践的な固定法についても取り組む。

2. 授業の進め方

担当教員によるデモンストレーションの後、学生同士が2人1組のペアとなり反復練習を実施する。この間、包帯の技術習得において重要なポイントである機能性（固定範囲と肢位、圧迫圧）、外観（見た目の美しさ）、スピード（施行時間）などの完成度を高めるための指導を行う。また、毎回の授業終了後には「包帯実習レポート」を作成する。

3. 授業計画

1. ガイダンス、包帯の巻き方の基礎と巻き戻し	9. 部位別包帯法⑤（膝関節部、下腿部）
2. 基本包帯法①（環行帯、螺旋帯、蛇行帯、折転帯）	10. 部位別包帯法⑥（足関節部、足指部）
3. 基本包帯法②（亀甲帯、麦穂帯）	11. 部位別包帯法⑦（胸・背部、腰部）
4. 部位別包帯法①（肩関節部）	12. 冠名包帯法（デゾー包帯）
5. 部位別包帯法②（肘関節部、前腕部）	13. 固定材料を用いた固定①（クラーメル副子）
6. 部位別包帯法③（手関節部、手指部）	14. 固定材料を用いた固定②（ギプス）
7. 中間試験	15. まとめ（部位別包帯法およびクラーメル副子、ギプス固定におけるポイントの復習）
8. 部位別包帯法④（股関節部、大腿部）	

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

学生は、互いの包帯技術を高めるために、毎授業で「包帯実習チェック表」に重要ポイントを記載してもらい、それを確認しながら復習し、毎回の授業に臨むこと（1時間程度）。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施の際、解答のポイントおよび出題意図を試験終了直後に説明する。

6. 授業における学修の到達目標

本授業では固定法の基本となる巻軸包帯を用いた関節固定について実技実習を行い、その基礎的技術を習得することを目標とする。

7. 成績評価の方法・基準

中間試験（50%）並びに定期試験（50%）の結果より評価する。

8. テキスト・参考文献

- ①（社）全国柔道整復学校協会監修、包帯固定学改訂第2版、（株）南江堂、2017年
- ②その他の参考資料は、必要に応じて授業中に紹介または配布する。

9. 受講上の留意事項

- ①毎回の授業時にはテキスト並びに固定材料（包帯など）を必ず持参すること。
- ②実習着（ポロシャツ）を着用すること。
- ③アクセサリ（ピアス、指輪、ネックレス）は、はずすこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当する。本授業は整形外科における実務経験を活かして指導する。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。